

気づき 考え 実行する 主体的な子供の育成 ~つながる 挑む 考動する~



# 河内小だより

三次市立河内小学校 令和5年12月号

## がんばった！マラソン大会

11月27日（月）に校内マラソン大会を行いました。とても肌寒い日でしたが、参加した児童全員が最後まで走り切りました。マラソンをする時によく言われることですが、マラソンは自分の心との闘いです。目標をもって走っていても、必ず辛くなり、歩きたい心境が襲ってきます。その時に、歯を食いしばって走り切るか、「やっぱりダメだ。。」と[思](#)ってあきらめてしまうか。。。

寒い中、最後まで走り切った河内小の子ども達は、向上心と忍耐強さをもった本当に素晴らしい子どもたちです。応援していて感動する姿がたくさん見られました。子ども達は、記録の更新とともに、心も強くたくましくなりました。沿道で応援をくださった保護者・地域の皆さん、交通安全推進隊の方々、ありがとうございました。



## 河内小学校児童会役員

児童会活動も後期に入り、役員が代わりました。11月21日(火)に引き継ぎ式を行いました。「みんなで助け合い、笑顔あふれる学校に!みんなが楽しめる学校に!」をスローガンにして活動すると公約してくれました。後期の新たな活動として、児童玄関から入ったところに、ホワイトボードを設置して、みんなが元気になるようなメッセージを毎日書いてくれています。後期役員さんの活躍を期待しています。

### 後期児童会役員

会長 池田 蒼生(6年生)  
副会長 田上 一葉(6年生)  
          冲盛 亮太(5年生)  
選挙管理委員 余平 望(5年生)



### 前期児童会役員

会長 高橋 武都葵(6年生)  
副会長 畠山 蓮(6年生)  
          戸田 幸太郎(5年生)



半年間、児童会のリーダーとして、児童会をまとめ、朝会や各行事の司会、代表あいさつなどの仕事をよく頑張ってくれました。自分たちの児童会は自分たちで責任をもってよくしていこうという気持ちが素晴らしかったです。

## 【 中国新聞に掲載 文化ひろば「こども俳句」 みんなの広場 】

- ・女子野球 三次にきたよ おうえんだ  
(4年 藤越琥太郎) 10月12日版
- ・こどもかい はなびがきれいだ さいこうだ  
(1年 戸田 きょうこ) 10月19日版
- ・うっ寒い ふとんにもぐる 秋の朝  
(5年 戸田 幸太郎) 11月 9日版
- ・ハロウィンだ 仮装の一群 迫る朝  
(6年 高橋 武都葵) 11月16日版
- ・発表会 ソーラン節で あせ流す  
(4年 畠山 莉子) 11月23日版
- ・朝起きて 外に出たら 白い息  
(4年 田上 瑛一郎) 11月30日版
- ・カレンダー めくってみると あと二まい  
(4年 藤越琥太郎) 12月 7日版
- ・かめむしが いっぱいすぎて くさすぎる  
(3年 余平 樹) 12月14日版

## はぶそう茶づくり見学 3・4年生 11月29日

3・4年生が総合的な学習の時間に、「河内ハブソウグループ」さんの作業の様子を見学に行きました。作業部屋に入った瞬間、はぶそう茶のいい香り。「あっ、飲んだことがあるにおいだ!」と子ども達の嬉しそうな声。今回は炒ったはぶそう茶の袋詰め作業を体験させていただきました。小袋に4gずつ計って入れていきます。教えていただきながらみんな夢中になって作業をしました。作業の後、試作中の「ハブソウ茶」で作ったゼリーの試食もさせていただきました。3・4年生は「河内自慢」というテーマで学習を積み重ねてきていますが、また新たな河内地域の自慢になる特産物の学習をすることができました。



## 加藤組さんのお仕事見学 全校 11月29日

ただいま河内地区の田んぼの圃場整備をしてくださっている加藤組さん。その加藤組さんのご好意で今年も重機乗りの体験をさせていただきました。

「バックホウ」「ブルドーザー」「不整地運搬車」の3台の重機に乗らせていただきました。運転席からクラクションを鳴らしたり、レバーを動かしたりと、とても貴重な体験をさせていただき、楽しそうな子ども達でした。重機もどんどん進化しており、バックホウにはICTの画像がついていました。

質問タイムでは、高学年が「仕事のやりがいは何ですか?」と質問。「自分たちが橋や道路が地図に載ることです。」という答えをいただきました。自分の仕事に誇りをもって働いておられる言葉で、とても説得力があり感動しました。子ども達の感想の中に、加藤組さんのような仕事も職業選びの選択肢に入りたいと話す児童もいました。キャリア教育につながるとてもいい体験でした。



## 「ふるさと河内の自慢」 ～社会を明るくする運動受賞作文～

この度「第73回 社会を明るくする運動：作文コンテスト」において、6年生の「畠山 蓮」君の作文が「三次市教育長賞」に選ばれました。「地域の自慢を未来に」というテーマで、「ふるさと河内の自慢」について書いてくれています。あたたかい河内地域の皆さんに包まれながら育ち、その中で感じたことを素直に表現してくれています。ぜひご覧ください！

### 「地域の自慢を未来に」 第6学年 畠山 蓮



僕が住んでいる地域には、たくさんの自慢がある。

1つ目は、自然だ。生活のすぐとなりにも自然がある。川や山の風景は、とてもきれいだ。そんな自然の中で、友達と遊んでいると楽しくて、心がワクワクする。アナグマやねこも生き生きとしている。僕は、田舎で生まれて、田舎で育ったから、自然の良さはよく知っている。

2つ目の自慢は、人だ。地域の人、とてもやさしい。地域みんなが、僕のことを知っている。家の近くの土手で、地域の人に会ったら、

「大きくなったね。」

と言ってもらえる。

僕は、家族に支えられている。それだけでなく、地域の人のおかげがあって、がんばれてこれたんだと思う。地域の人とのつながりは、あらためてありがたいと思う。

3つ目の自慢は地域の行事がたくさんあることだ。ふれあい祭りや運動会やかっぱ道場など1年間にいろいろな行事がある。

ふれあい祭りでは、僕たちの発表を見て、地域の人たちが喜んでくれる。

運動会では、小学生の種目だけでなく、地域の人といっしょにする種目もある。だからみんな楽しくなれる。

かっぱ道場では、地域の人といっしょにいかだを作って川を下る。地域の自然や地域の人とのつながりが感じられる最高の行事だ。

だから僕は、都会に行く気はないし、やっぱりふるさとがいいと思う。

ニュースで見るような事件で悪いことをした人達も、もしも僕のふるさとで育っていたら、悪いことをしなかったかもしれないと僕は思う。

そんなふるさとの自然や人とのつながりをこれからも守っていききたい。僕ができることを考えた。それは、あいさつをすることや積極的に行事に参加することだと思う。

僕も中学生になったら、今までのように地域の行事に参加できなくなってしまう。でも、参加できる行事には、できるだけ参加しようと思う。

そして、地域の自慢を未来につなげていく。こんなすてきな地域が日本中にたくさん増えると、みんなが住みやすい日本になると僕は思う。